

郵便
報知新聞
第五百五十一号

大坂船越町小骨接と業ともも松本
 何いと呼ぶ婦人あり年猶廿六才あり
 日頃より柔術も長じり其妍よ
 きを以て人其勇を知らぬは近き
 頃隣家の娘と連立て長柄川の
 堤と過りしに川風来りかかれ
 時四人の荒男躍り出でその
 隣の娘と二人へくく取あそ
 強淫あらんと爲せしむばたけり
 大目怒りし組付て一人を水中
 投て又一人を撞ち隣の娘と押
 臥せ上りきつて一人の領髪とつて
 捻倒し拳を堅めて人の眼の辺を
 打たれ何れも逃散す

三振りの因縁誌



彫工 銀

大福茶屋